

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知学院大学末盛キャンパス	階数	地上6F、地下1F
建設地	名古屋市千種区月見坂町二丁目15番1、15番2、15番3、15番4、15番5、15番6	構造	SRC造
用途地域	第一種住居	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2021年9月9日
敷地面積	3,658 m ²	作成者	
建築面積	1,353 m ²	確認日	2021年9月9日
延床面積	8,926 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5

★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B:★★ C:★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	99%
②建築物の取組み	99%
③上記+②以外の	99%
④上記+オフサイト手法	99%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 名古屋市千種区に計画された大学施設である。公開空地を設け、地域に開かれた緑地帯を整備している。	その他 周辺が住宅街であることを踏まえ、建物を南東角に寄せ圧迫感を軽減すると共に、敷地東面は積極的な緑地を行うことで視線をゆるやかにカットしている。	
Q1 室内環境 自然エネルギーを利用した住環境に加え、化学汚染物質のなるべく少ない建材を採用し、快適な居住空間を創出している。	Q2 サービス性能 OAフロアを積極的に採用し、将来の更新性に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内を積極的に緑化し、周辺にも寄与する良好な環境を形作っている。
LR1 エネルギー エコピットや光ダクトなど自然エネルギーを活用した計画としている。	LR2 資源・マテリアル 再生材ブロック舗装や既設間知ブロックを再利用し、資源の有効利用に努めている。	LR3 敷地外環境 排出空気の高浄度を高めたり、外構照明の向きに配慮しグレア抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

愛知学院大学末盛キャンパス

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.2	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.1	
2. 自然共生	評価点 = 3.1	
3. 循環型社会	評価点 = 3.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。